

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無
--------------------------------------	---

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

<input checked="" type="checkbox"/>	効果的な授業	<input type="checkbox"/>	児童生徒の資質・能力向上	<input checked="" type="checkbox"/>	教員研修	<input checked="" type="checkbox"/>	ICT活用指導力向上
<input type="checkbox"/>	校務の情報化	<input type="checkbox"/>	保護者や地域への情報発信	<input type="checkbox"/>	ICT環境整備	<input type="checkbox"/>	ICT活用サポート
<input checked="" type="checkbox"/>	ICT活用推進	<input type="checkbox"/>	学校運営・管理	<input type="checkbox"/>	保護者や地域による学校支援	<input checked="" type="checkbox"/>	地域での児童生徒学習支援
<input type="checkbox"/>	学校行事	<input type="checkbox"/>	通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/>	その他 (<input type="checkbox"/>	

学校又は団体名 (実践時)	オンライン寺子屋(任意団体)						
団体種 (校種、NPO 等)	NPO・任意団体						
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、 学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入 ※連名での応募も可</small>	応募者※1	中村 柊	教諭	ナカムラ マサキ			
	連名者 (3名まで)	堀 佳月	教諭	ホリ カズキ			
齋藤 みずも		随時学習センター職員	サイトウ マサキ				
学校や団体への所属年数(応募者)	1	ICT夢コンテストの参加を含む応募回数 (応募者)				1	

実践事例タイトル <small>※40文字以内・サ行以外は不可</small>	全国の先生が全国の生徒にオンラインで個別無料授業						
実践の特長 (先進性、普及性) のどちらか一つ選択 <small>※どちらかといえば該当すると思う方の項目の左に●を記入</small>	<input checked="" type="checkbox"/>	先進性	<input type="checkbox"/>				普及性

下記項目は改行せずに記入をお願いします。自由記述ですが審査の参考としますので、必ず記入 (なければ“特に無し”) をお願いします。

教科もしくは分野	全教科
対象者 (学年・他)	小学1年生から高校3年生
教科の単元 (わかる場合のみ記入 複数可)	教員により異なる
実践場所 (遠隔、PC教室、体育館等)	遠隔
実践時期	2020年5月～現在
活用したICT機器、教材、環境等	Zoom, G suite for education, AirReserve, Slack

アンケートをお願いします。コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。●を記入してください。複数選択可です。							
<input type="checkbox"/>	案内ポスター	<input type="checkbox"/>	前から知っている	<input type="checkbox"/>	教育委員会からの紹介	<input type="checkbox"/>	上司や友人・所属団体からの紹介
<input checked="" type="checkbox"/>	案内チラシ	<input type="checkbox"/>	事務局メール	<input type="checkbox"/>	ニュース媒体から	<input type="checkbox"/>	JAPET&CEC ホームページより
ご意見	特にないです						

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください (実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・応募事例に、図や写真を組み込むことでより実践が分りやすくなるようにしてください。
- ・フォーマットの変更はしないでください (実践内容部分も2段組にせず、1段組のまま記述してください)。
- ・参照URL、QRコードの使用は不可です (応募書類以外の情報は審査対象外です)。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。
- ・実践事例の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください、また46文字/行を目安としてください。

コロナ禍で有志の現役教員が中心に集まり、オンライン個別授業を行うオンライン寺子屋を発足させた。50人以上の現役教員や社会人が集まり、合計1000件以上のオンライン無料授業を行い、その様子は朝日新聞、教育新聞、TBSに取り上げられた。オンライン授業という特性上、全国各地から授業を受講することができ、海外から授業をしている教員もいた。生徒の80%は学校外のサポートを受けていない生徒であり、多様な生徒が受講できるように無償授業とした。また、教育実習を行う機会を失った大学生に向けて、オンライン教育実習プログラムも行い、多様な教育機会を提供し続けている。

(1) ICT活用の目的とねらい

新型コロナウイルスで学校が休校の状態であった2020年5月11日、文部科学省の高谷浩樹 初等中等教育局長 情報教育・外国語教育課長が情報環境整備に関する説明会をYouTubeでLIVE配信した。その中で、「できることから、できる人から」「既存のルールに捉われずに臨機応変に」「やるうとしないということが一番子供に対して罪だ」と述べた。それを受けて「自分たちにできることを、今すぐ、始めよう」と決意し、5月12日から14日のわずか3日間で、SNSで教員に協力を呼びかけ、生徒を募集して、オンライン寺子屋の組織を立ち上げた。5日間で100人以上の生徒から申し込みがあり、2週間で100回以上の授業を行なうことができ、発足から1年経ち授業実施数は1000件を超えた。参加している生徒の80%は学校外のサポートを受けていない生徒である。生徒たちが、質の高い授業を誰にでも、どの場所でも受ける機会を提供したいと考え、無償で始めた。

コロナ禍での団体立ち上げにあたり、運営者や講師は実際に一度も直接会ってはいない。全てオンラインで会議、サービス設計、サービス提供を行い、わずか3日間でオンライン寺子屋を始めることができた。講師登録の方法や、受講希望者に対するメール返信、Zoom等のツールの準備、授業の進め方などの経験交流を、講師が自主的・自発的に行っている。「できるひとが、できるときに、できることを、できる分量だけ実施する」というボランティアの基本を忠実に実行し、しかも大きな成果をあげている。「参加者が、有機的に結びつき、あちこちで予期しない化学反応を起こして、新しい知見を次々に生み出している」と言える。参加者の自由なメッセージが流れる場を共有する一方で、必要事項はSlackを用いて整理し、検索・閲覧ができるようにしている。また、Google Site、Google Form、AirReserve等の既存のツールを組み合わせ、無料でしかも機動力の高いシステムをつくりあげている。



オンライン寺子屋HPより

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

特徴1) 完全無料で1対1の学習サポート

授業内容を受講生一人ひとりのニーズにあった授業を行う。学校の宿題、予習、復習、演習など、毎回相談して、内容を決定する。一人一人に合わせた授業内容、ペース、教え方をしているため受講者の満足度も高い。

特徴2) オンラインで全てが完結

生徒が授業に必要なのはスマホのみである。タブレットやコンピュータがあれば好ましいが、スマホのみでも十分にサポートを受けられるようにツールを厳選している。



オンライン授業の様子

特徴3) 受講生徒・講師が全国各地から参加

授業をオンラインで実施していたため、授業をする教員と受講する生徒の場所が限定されていない。北海道、関東、近畿、九州、沖縄と言った全国各地から生徒が授業を受講した。またアメリカから授業をする教員や、インドから授業を受ける生徒もいた。

特徴4) 大学生オンライン教育実習プログラムも開始

コロナウイルスで教育実習を行うことができない大学生に向けてオンラインで教育実践を積むことができるオンライン教育実習を行った。オンラインでの教え方や、テクノロジー機器の使い方、オンライン模擬授業を行い、現役の教員から授業後にフィードバックをもらえるプログラムを実施し、**コロナ禍でも大学生が教育に関わることができる機会を提供した。**

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

講師、生徒、保護者、大学生という多様な立場の人がオンライン寺子屋に関わり、オンライン寺子屋の経験を通して変容していった。講師や大学生は、自分の出来ることを自発的に行ったり、互いに感謝したり、情報交換会の経験交流を通じて自己有用感を高めた。生徒は、オンライン個別授業という利点を活かし、自分のペースや興味に合わせて学習することができた。保護者は、家でも質の高い授業を受けられたことで満足感を得ている。

■講師コメント・大学生コメント

学校が休校になり学校で授業ができない時にオンライン寺子屋で授業をして、**社会に貢献することができた**と感じる。また、**ICTリテラシーも向上**したり、他の教員と交流することができて貴重な場であった。

・無償のボランティアとして参加したつもりが、受講してくれる小学生から元気をもらえたり、「わかった!」と言って喜んでくれる様子を見て**やりがいを感じられたり**と、**教える側も恩恵を受け取っている。**

■生徒コメント

・オンライン個別授業は教室授業に比べてわからないところをちゃんと聞けます。教室の授業は、わからないまま1時間が終わってしまったり、周りの目が気になって先生に聞けなかったり、友達に教わってもよくわからなかったりして、勉強について行けなかったです。でも、オンラインの個別授業はわからないところを周りを気にせずに「わからない!」と聞けるので、わかりやすく確実に、学ぶことができます!

・私の学校は一斉授業のため、みんなと同じペースで授業が進みますが、この個別レッスンだと先生が自分のペースやレベル、**興味の分野に合わせて教えてくださって、理解度や定着度がアップしていると感じています!**また先生のお話が毎回面白く、私も早く英語を話せるようになって、自分の可能性をもっと広げたいと思うようになり、最近では授業外でも英語に触れるようになりました!」

■保護者コメント

・集中力が続かなく、でも注目して欲しい性格の息子が、とても楽しそうに勉強できて「また、先生と勉強する!」と言うくらい大好きになったようでした。低学年の男の子へのアプローチ方法や話し方が素晴らしいかったです。一対一で学べるのが息子に合っていて、貴重なコミュニケーションの場になりました。

・勉強嫌いの娘が生き生きと問題に取り組んでいました。早速自分から来週の授業まで申し込んでいました。授業前に見せていただいた、先生が訪れた各国の写真や、先生の取り組みが、とても心に残ったようです。子どもの時に、多様な生き様の大人の人に影響を受けることは、大変意義のあることだと思います。

・本当に善意でやって頂き感謝しております。国語のレッスンってどのようなものなのかと思っていましたが、現代を生きる力に直結するプレゼン力を鍛えるようなレッスンでした。本当に貴重な体験をさせていただきました。学び方も、ゲーム形式のものを準備して頂き、とても楽しく学んでいます。



大学生の授業実施の様子